

3.3 歴史を物語る景観を守り育てる

古くから栄えてきた筑後川流域では、各時代の歴史を物語る建造物、史跡などが各地に数多く残っています。

耳納北麓の装飾古墳や八女丘陵から連なる古墳群は、古代の歴史を今に伝えてくれます。また交通の要衝でもあった筑後平野では、律令制の頃には西海道がつくられ、江戸時代には参勤交代の行列が往来した薩摩街道、幕府直轄地で西国筋郡代所へ通じる日田街道、久留米・柳川を結ぶ往還道があり、街道沿いの宿場跡には、今もなお歴史的風情を残す景観を垣間見ることができます。

筑後川の治水利水の為の歴史的な建造物も数多く、江戸時代から大正期にかけてつくられた堰や築堤などが現存し、往時の技術と苦勞を伝えています。

明治期に入り産業の近代化とともに、筑後川昇開橋をはじめとする鉄橋

が建設され、今もなおその姿は地域から愛着をもって見られています。

また各地の集落には必ず神社が祀られ、祭りや年中行事と共に地域の文化を育んできました。

そうした古墳などの史跡、歴史的な建造物、歴史的な町並みや建物、伝統的な祭り・行事は、地域の多様な景観をもたらしています。そのため、各地の歴史的資源が持つ価値を再評価し、後世へと継承すると共に魅力的な景観の形成を図ります。



吉井白壁土蔵の町並み（うきは市）



久留米城跡（久留米市）

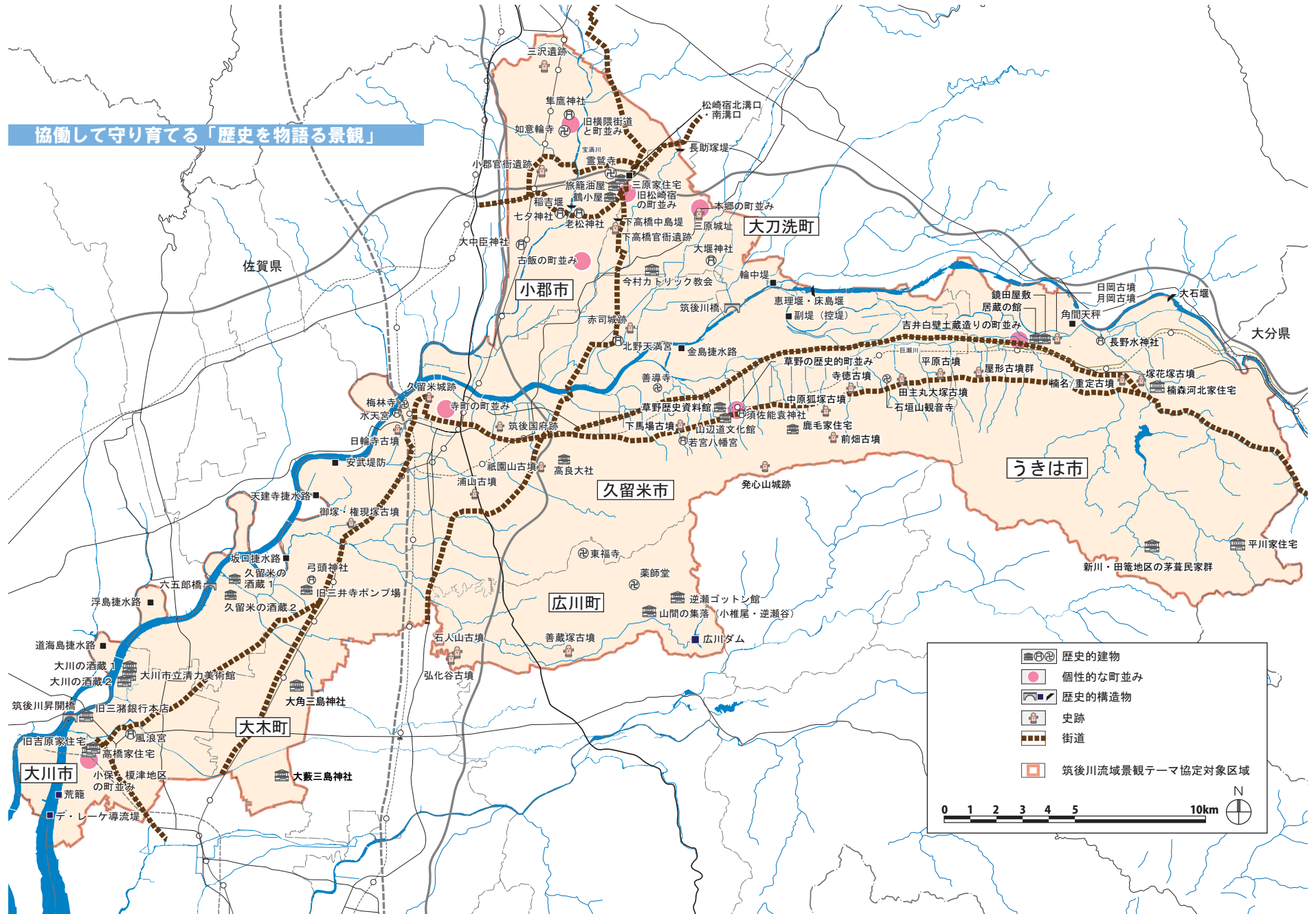


今村カトリック教会（大刀洗町）



大藪三島神社（大木町）

協働して守り育てる「歴史を物語る景観」



3.4 四季や時間の移ろいによる景観を守り育てる

棚田での田植えや稲刈りの風景、初夏の麦秋が広がる田園、実りの時期には彩りが鮮やかになる果樹園など、四季折々に変化する農業景観を各地で望むことができます。同じように、季節ごとに彩りの鮮やかな花木や桜並木、落葉樹など四季折々に変化のある景観を楽しむことができます。

また、古くから洪水や干ばつを繰り返した歴史がある一方で田畑を潤す貴重な水源であった筑後川沿いでは、様々な祭りや行事が行われ、季節の節目を飾る風物詩となっています。

筑後川下流では、夕陽に映える景観が多くの人々の心象風景となっており、上流の耳納連山の麓では気象変化による様々な表情の山容を見ることができるなど、時間や気象の変化により趣き深い景観を見ることができます。

そうした四季折々の景観や時間の変化、気象の変化による多彩で豊かな景観を保全・継承していきます。



広川ダムの桜（広川町）



ぶどう畑（久留米市）

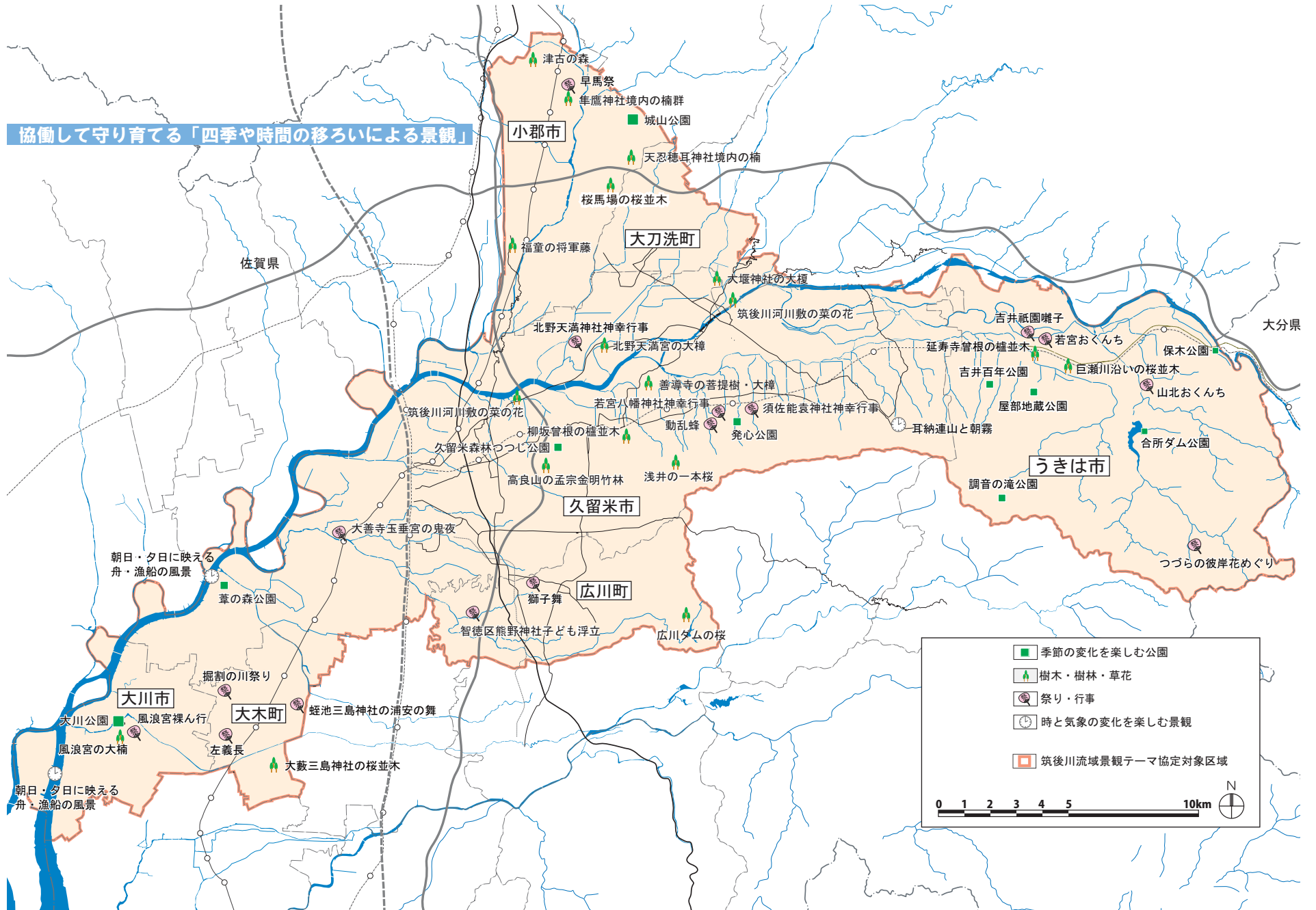


夕陽に映える筑後川昇開橋（大川市）



大善寺玉垂宮の鬼夜（久留米市）

協働して守り育てる「四季や時間の移ろいによる景観」



3.5 緑の道でつながる景観を守り育てる

欂並木、桜並木、ケヤキ並木など、特徴的な緑のある通りは、多くの人に親しまれ、季節の折々に彩りのある景観を望むことができます。山苞の道や筑後川堤防道路等では、連続した緑と家並みが続く特徴のある沿道景観が形成され、地域の個性や魅力を創出しています。

そうした良好な景観が連続した道では、沿道の整備や屋外広告物等の規制誘導を進め、沿道の構成要素と道路空間が調和する景観形成を図っていきます。

また、特徴のある道沿いの豊かな生垣等や欂並木などは流域内外の多くの人々親しまれ、多くの人を惹きつける地域の魅力となっています。そうした特徴を活かし、花木を用いた沿道の修景に積極的に取り組んでいきます。



筑後川堤防道路



耳納スカイライン



緑が豊かな山苞（やまづと）の道（久留米市）



筑後川サイクリングロード（うきは市）

協働して守り育てる「緑の道でつながる景観」

